

Social

品質と製品安全

社会課題に対する考え方

お客さまの満足と信頼を得るには、製品そのものの品質と安全性に加え、環境への配慮、万一の場合の体制づくりなども含めた総合的な取り組みが求められています。

アンリツグループの社会的使命は、「安全・安心で豊かな社会」の実現に貢献していくことです。その使命を達成するためには、上記の課題に対応した上で、「安全・安心な製品」を提供していくことが必須条件であると考えます。特に電気機器を提供するアンリツとしては、製品事故防止に一丸となって取り組んでいく責任があり、グループ横断的な品質向上に努めています。

方針

アンリツは、「誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」という経営理念の下、お客さまと社会に満足される商品とサービスを提供するために、国内アンリツグループ共通の品質方針および行動指針を定め、品質向上を図っています。

品質方針

顧客と社会に満足される商品を誠と和と意欲をもってつくる。

品質方針に関する行動指針

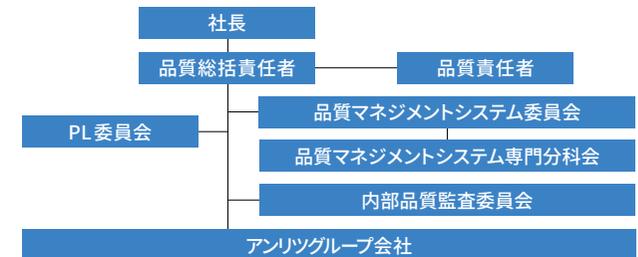
- ・不具合品を出さぬよう、仕事に誠心誠意取り組む。
- ・後工程はお客様。全体の調和を配慮し行動する。
- ・意欲をもって、改善提案する。

体制

国内アンリツグループでは、品質マネジメントシステムを適切に運用し、製品品質の維持・向上と保証を図るために、品質総括責任者（アンリツ（株）品質総括役員）を委員長とし、国内アンリツグループ各社の社長で構成される品質マネジメントシステム委員会と内部品質監査委員会を設けています。また、国内アンリツグループ各社の品質責任者で構成される品質マネジメントシステム専門分科会

は、全グループ会社共通の方針策定や取り組みを推進し、横断的な品質向上に努めています。また、製品事故が発生した場合の対応や製品事故予防システムの整備および再発防止に向けた取り組みは、品質総括責任者を委員長とし、広報、法務、内部統制、資材、サービス部門と国内アンリツグループ各社の品質責任者からなるPL委員会が検討しています。品質の状況は、品質総括役員が毎年経営戦略会議で報告しています。

国内アンリツグループの品質マネジメントシステム体制



ISO 9001取得状況

品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001の認証を1993年から取得し、製品の設計・開発から製造・サービス・保守に至るまで一貫した品質管理をグローバルに展開しています。

製品実現プロセスに関わる全ての組織でISO 9001の認証を取得しており、品質マネジメントシステムの認証カバー率は100%です。なお、アンリツグループの人員数をベースとした場合、認証カバー率は約75%です。

WEB ISO 9001認証取得会社一覧

目標

国内アンリツグループでは、2018年度から2020年度までの3カ年を計画期間とした、中期経営計画「GLP2020品質イニシアチブ」において、以下のテーマを設定して活動してきました。テーマ2～5の目標は全て達成できましたが、テーマ1ではEMS/QMS統合内部監査の効果確認を2021年度に持ち越すことになりました。新たに策定した2021年度から2023年度までの3カ年計画「GLP2023品質イニシアチブ」では、テーマ1の効果を確認するとともに内部品質監査の有効性向上を行い、事業プロセスにおけるマネジメントシステムの活用や組織への品質マインドの定着を通し、さらなる品質向上と新たな課題に取り組んでいきます。

GLP2020 品質イニシアチブのレビュー(実績)

テーマ	レビュー(実績)
1. マネジメントシステムの統合による改善	・EMS/QMS統合内部監査を対象部門にて実施 ・国内営業部門等3部門をQMS範囲に追加
2. 省エネルギー・省資源製品(環境配慮型製品)の強化	・部材/製品のCO ₂ 排出削減の2030年目標を策定し、SBTの承認を1年前倒しで取得 ・カテゴリ1(部品): サプライヤCO ₂ 排出データ入手/削減依頼開始
3. 法令順守・製品安全管理の強化	・全社向けの法令関連教育を継続的に実施 ・製品安全指定物質管理の規程化、グリーン調達ガイドライン反映等を行い、製品の赤リン含有把握/顧客問合せ対応を実現
4. 未然防止プロセスの強化	・未然防止手法の講演会、開発向けセミナーを開催 ・苦情/不適合案件レビュー、各事業体品証フィードバックを年度毎実施
5. グローバル活動の推進	・グローバル品質情報サイトを開設し、海外への情報発信を開始

GLP2023 品質イニシアチブのテーマと概要

テーマ	ステータス ^{※1}	概要
1. 事業プロセスにおけるマネジメントシステムの有効性向上	継続 ^{※2}	・QMS適用範囲の拡大検討 ・タイプ別監査改善、監査員レベルアップ等による内部品質監査の有効性向上
2. 組織の品質マインドの定着	新設	・品質意識向上を盛り込んだ教育等の計画、実施
3. 法令順守・製品安全管理の強化	新設/継続	・法令/規制の情報共有の仕組み構築(新設) ・製品安全指定物質の管理部品データ利活用の拡大(継続)
4. 品質におけるグローバル活動の推進	継続	・グローバル品質情報サイトの継続的改善

※1: 対GLP2020

※2: テーマのタイトルおよび実施内容を一部変更して継続

取り組み/活動実績

マネジメントシステムの統合による改善

2018年度よりマネジメントシステムの統合について検討した結果、最も有効性が高いと判断した品質マネジメントシステムと環境マネジメントシステムの内部監査を統合し、2019年度に対象となる7部門を選定しました。2020年度には2部門に対して統合内部監査を実施しました。2021年度には残りの5部門を含む複数部門にて実施し、マネジメントシステムの統合による改善を加速します。

省エネルギー・省資源製品(環境配慮型製品)の強化

アンリツグループでは、お客さまをはじめステークホルダーの皆さまの環境負荷低減の要求に応えるため、GLP2020品質イニシアチブの中で環境配慮型製品の開発強化を掲げ、製品の省エネルギー・省資源化に取り組んできました。

GLP2020では、温室効果ガスの排出削減目標・計画を策定してSBTイニシアチブから2019年度に認証を取得し、その目標達成に向けた取り組みを開始しました。バリューチェーンでの間接的な温室効果ガスの排出であるScope3の目標達成に向けて、省エネルギー・省資源製品の開発推進や取引先さまとの協働強化を今後も進めていきます。

なお、GLP2023では環境部門で活動を継続していきます。

 P.33 購入した製品・サービスのCO₂排出量削減、製品使用時のCO₂排出量削減

法令順守・製品安全管理の強化

電子部品の樹脂用難燃剤としてまれに添加されている「赤リン」は、短絡・発煙などの製品事故につながる可能性があります。そこで、この物質をアンリツグループが独自に規定している「製品安全指定物質」に指定し、調達する部品への含有を制限しました。2020年度は、2019年度に運用を開始した製品安全指定物質管理体制の規程化とガイドライン化を実施すると共に、購入部品に対する赤リン含有調査と調査結果の社内展開など、管理プロセスの本格運用と継続的改善を進め、お客さまからのお問い合わせに対応可能な状態としました。

また、法令順守・製品安全・品質不正防止をテーマにした品質管理教育を継続実施しました。

未然防止プロセスの強化

2019年度に、品質不良の未然防止手法であるDRBFM (Design Review Based on Failure Mode：トヨタ自動車さまが開発したツール)の全社向け基礎教育を実施した結果、一部の部門で導入を検討したいとの要望がありました。

これを受け、2020年度は当該部門を主対象とした外部講師によるワークショップを開催し、DRBFM手法を参考に独自の未然防止手法の導入検討を開始しました。また、開発エンジニアを対象としたソフトウェア品質向上に関わる定期的な技術講演会も継続実施しました。

グローバル活動の推進

グローバル各拠点における品質状況の共有を目的に2019年度よりグローバル品質情報サイトを開設し、世界の製品関連法規制などを各拠点と共有しています。直近ではイギリスで製品を上市する際に、イギリス政府が指定する製品群に対して適用が義務付けられるUKCA marking (UK Conformity Assessed Marking) の情報を掲載し、製品関連法規制違反につながるリスク低減を図っています。

製品事故・法令違反の防止

アンリツでは、これまでリコールの対象となる事故、および製品安全に関する法令違反は発生していません。

国内アンリツグループでは製品事故発生時に速やかに対応できるようイントラトップページで製品事故の通報窓口を設けています。また、通報窓口への連絡を周知徹底するため、毎年10月に開催する企業倫理推進月間で、製品の事故に関する法律とアンリツの製品安全体制について全社員に教育を実施しています。

製品安全に関しては、お客さまの安全確保のため、ホームページに予防保全のお知らせや点検・修理に関する情報を自主的に掲載し、注意喚起に努めています。

また、法令違反の未然防止の強化を図るため、法令違反につながりかねない軽微な問題でも確実に捉え速やかに是正し経営層に報告する仕組みを構築し、2020年度から運用を開始しました。